

大学院特別講義のご案内

- ◆ 日時:2020年2月19日(水)18:00～20:00 (質疑応答を含む)
- ◆ 場所:大阪大学歯学部記念会館2階
- ◆ 講師:松原貴子 先生 (神戸学院大学大学院総合リハビリテーション学研究科長・教授)
- ◆ 演題:“Exercise is Medicine”は歯科領域の痛みにも応用できる!
- ◆ 概要:“Exercise is Medicine (EIM)”は、運動器疾患、糖尿病、メタボリックシンドローム、がん、認知症、うつ病、発達障害等、様々な疾患や症状に対し臨床応用され、非常に良好な成果が報告されている。興味深いことに、このEIMはこれまで難治性、治療抵抗性とされてきた疾患に奏効する可能性を有する。慢性口腔顔面痛を含む慢性疼痛がEIMの適応のひとつである。慢性疼痛は、国際疾病分類(ICD-11)に明記されることとなり、注目すべきはつねに何らかの原因の結果として生じるわけではなく、むしろ一次性に生じた、疾病としての新たな認識が反映されている。近年、運動は、慢性疼痛の病態の中で中枢を含む神経機能変化に対し、種々の鎮痛薬効果に類似する内因性ニューロトランスミッターを介して末梢・中枢感作の抑制ならびに脳報酬系や下行性疼痛抑制系の機能不全の回復を促すことで鎮痛(exercise-induced hypoalgesia: EIH)をもたらすことが明らかにされている。今回は、慢性疼痛に対する運動療法の効果メカニズムについて紹介し、歯科領域への臨床応用についても考えてみたい。